



## 東北復興 PSW にゆうす

東日本大震災から7年がたちました。今回は、3月3日、4日におこなわれた、復興支縁ツアーinいわてのご報告を中心にお届けします。

本委員会も第3期目に入ります。いろいろなことが変わっても、変わらなくても、まだまだ私たちの縁は広がり、深まっていくことと思っております。

### 復興支縁ツアーinいわての様子

1日目 (3月3日)

☆ご参加の皆さま、岩手県士会の皆さま、ご協力ありがとうございました☆



### ～ツアー参加者の声～ 「知っていくということ」

日山春奈さん (広島県支部)

震災から8年目に入りました。こうしてまた8年目が過ぎて9年目を迎え、すぐに10年目を迎えるのでしょうか。今年も東北復興支縁ツアーに参加させていただき、昨年同様、貴重な体験ができました。

1日目のシンポジウムでは岩手こころのケアセンターの舟山氏から、心のケアセンターの活動、被災地の現状や支援の必要性について、宮古市社会福祉協議会の飛澤氏からは、仮設住宅や公営住宅等の地域住民が繋がることの大切さについて、ま7宮古山口病院の斉藤氏からは自身が被災された経験を基に震災後の現地や身体的、精神的な問題と変化、支援について、同く宮古山口病院の北村氏からも自身の被災経験からワーカーとしての役割に対する思いやジレンマ、そこから気づかれた支のあり方をお聞きしました。

ワーカー自身も被災して被害が特に大きかった時、自分のことと他者への支援、どちらも必要であると思います。その場合私は「ワーカーだから周囲の支援が優先」とも「まずは自分のことを解決させてから」とも言えず、ただ戸惑うのだろうと伝えていました。しかし、そのような時も「辛い時には休みを取り合う、我慢はしない、周囲の支援者に頼る」という言葉が象的でした。「自分が頑張らなければ」ではなく、様々なことを周りと共有していければ、自分にも周囲にも安心感を与えるのに繋がるのかなと感じました。

2日目は宮古市で語り部の方からお話を聞きながら、現地の視察とグループワークを行いました。現地視察は、防波堤に上ってそこからの景色が震災当時から現在までどのように変わっていったのかをお話いただきました。また、2014年に津波遺構として保存が決定された田老の「たろう観光ホテル」で外観と、内観の604号室で実際にそのお部屋で撮影された津波発生当時の映像を見ました。「たろう観光ホテル」で見た映像は、あつという間に押し寄せる津波が衝撃的で、はっとしました。それは、7年前に自宅のテレビで見た、震災直後の映像で受けた衝撃と同じでした。いつまでもその衝撃的な気持ちは当然であり、その思いを持ち続けて良いのではないかと思います。

また、子どもグリーフサポートステーションの大塚氏から震災後の子ども達や地域へ行っているかかわりについてお話を聞いた後、他所へ被災地支援に行く時に必要なこと、自分の住む地域での災害対策、普段から地域の人とできるかかわりについて、グループワークを行いました。自分が他所で支援をするのは大切ですが、やみくもに行くのではなく、何を踏まえて行動するべきか考える時間となりました。

また、広島では2014年に土砂災害が起きました。地震に限らず災害は起きて欲しくはありません。しかし、住む地域で起きた時、その被害を完全に防ぐことはできなくてもどうすれば身を守れるのか改めて考えられました。

昨年、宮城のツアーでは津波が発生したら「戻らない」ことを一つに学び、災害の現状を見て知る大切さがわかりました。今回、岩手のツアーでは「津波が来たらてんでんばらばらに逃げる」と「学ぶことは命を繋ぐこと」を学びました。何年も経ったのでもう大丈夫、というのは誰にも決められないと思います。しかし、1人でも多くが知っていれば、風化させないことや教訓として伝わっていくのではないかと思います。



## ツアーinいわて 実行委員から

東日本大震災復興支援委員・ツアー実行委員 菅野好子（岩手県支部）

「復興支縁ツアーinいわて」が、2018（平成30）年3月3日、4日の2日間の行程で催行されました。

ツアーには、福岡・広島・大阪・奈良・神奈川・東京・千葉・福島・宮城・青森の10都府県の構成員の方々と、地元岩手に住む構成員の計16名が集いました。この旅のいわてツアーは、盛岡駅が発着地となり、主開催地の宮古市まではバスで2時間ほどの移動となりました。

ツアー1日目は、宮古市に到着後、「いろいろどりの支援」をテーマに、岩手県こころのケアセンターの舟山氏、宮古市社会福祉協議会の飛澤氏、宮古山口病院の斉藤氏、北村氏によるシンポジウムがありました。シンポジウムは、岩手県精神保健福祉士会の災害支援研修会との共催で、夜は県士会の方々も一緒に、宮古駅前の蛇の目本店から始まり、毛ガニ祭を翌日に控えた宮古市の夜を満喫したことと存じます。

翌3月4日は、宿泊先をバスで出発し、震災の語り部ガイドさんに、被災した宮古市田老地区を震災遺構にも案内いただきながら、震災当時の様子や被災状況についてお聴きしました。語り部ツアーの後は、NPO 法人子どもグリーンサポートステーションの大塚氏から話題提供をいただき、災害後の子どもたちや地域へのかかわりについて、グループワークも交え、考える機会となりました。宮古市を離れる前に魚菜市場でお買い物をしていただき、一路盛岡駅へ。

2日間とも春らしい陽気のなか、震災から7年目を迎える岩手でお過ごしいただきました。

## 復興支縁ツアーinいわての様子

2日目（3月4日）

語り部ガイドさん  
のお話  
（田老地区）



話題提供とグループワーク



食べる復興！  
飲む復興！  
とっても大切で  
すよね！！

## ★物販@長崎大会に向けて★ ～第54回全国大会・第17回学術集会 被災地障害者作業所等製品販売事業～

2018年9月14日、15日長崎ブリックホール他にて、全国大会・学術集会が開催されます。

東日本大震災復興支援委員会では、今年度も岩手・宮城・福島の事業所より製品をお預かりし、大会運営委員・協会事務局の皆さま、そして全国の仲間の協力を得て、物販をおこなう予定です。

6回目の取り組みとなりますが、今回もそれぞれの地域の様子をお伝えするなど「語りながら」の販売で、東北の地や東北の人たちを身近に感じていただけたらと願っております。

販売ブースへのお立ち寄りはもちろん大歓迎ですが、ご協力いただけるかたも大歓迎。「被災地のことはよくわからないけど、気になるなあ。なんとなく何かできることがある・・・かも」といった感じでも、大丈夫です！

販売協力員（ボランティア）募集など、詳細は本協会 WEB サイトでご案内の予定です。次号もご参照ください。

## ★募集★ - 東日本大震災復興支援活動 助成金交付申請 -

本協会では、東日本大震災復興支援事業の一環として、都道府県精神保健福祉士協会等による復興支援活動の経費を助成しています。第14期申請受付期限は、2018年7月31日（火）[当日消印有効]です。交付申請書に必要事項をご記入のうえ、本協会事務局宛てにご郵送ください。♪

<http://www.japsw.or.jp/backnumber/oshirase/2017/0323.html>

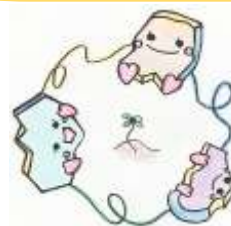
復興支援委員会では、皆さまとの縁・つながりが深まることを願っております♡

## 【ご意見・ご感想をお寄せください】

本紙では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しています。

FAXもしくはE-mail: [office@japsw.or.jp](mailto:office@japsw.or.jp) で皆さまのお声をお聞かせください。

★題名に「PSWにゆうすについて」とご記入ください★



第34号 2018年5月15日発行

発行：公益社団法人 日本精神保健福祉士協会 東日本大震災復興支援委員会

〒160-0015 東京都新宿区大塚町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993

★URL: <http://www.japsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>